

ほんとうに「合併しかない」のでしょうか

だれのため、何のための「せせらぎ・・・」だった？

自主・自立で「」を生きる「まちづくり」

「特例債」活用期限までに合併を、と政府の追い込みが強まるもとで「自立」を選択する自治体が増加しています。「せせらぎのまち」「住民主体」をかかげながら、甲良町を消そうとし、そのうえ、条例無視、無法放置の山本町政に対し、「だれのためのせせらぎか」「だれのための合併か」など疑問が広がっています。

「協議再開」ではなく中間報告

去る8月31日休会中の合併協議会が招集され、15年度決算などを承認したあと、各市町での意向調査後の住民説明会などの取組状況を報告。意見交換では犬上郡委員からの合併合唱となりました。中には「白紙と決まったのに、どこで、いつ白紙が解除されたか」との質問も。しかし「残された時間はきびしい。取り残されて禍根を残してはならない。中島会長に全てがかかっている。次の協議会には合併実現の力強い言葉を期待」「再開して感謝、合併実現にわれわれも努力を」「住民は合併のわけを知らない、他の迷惑もからんで結論を出した」など、住民の意向尊重など気にかけない発言が続出。大野町長は協議会規約を引用し、「11月には是非の結論を出せる協議会を」と中島会長に迫りました。

同協議に先立つ30日、日本共産党彦根市・犬上郡議員5氏の連名で「意向結果を無視する合併協議再開に道を開くな」と中島会長に申し入れました。

西澤のぶあき議員の談話

私も合併協議会を傍聴しました。率直にいうと犬上郡各町の委員さんは2つの角度で冷静に考えてほしいと思います。2月は、2月の意向調査は「協議会の確認」として行ったもの。市・町が行ったものではないのです。委員全員が賛成しているのです。ただ、結果を「尊重する」との確認をしていないので「これだけ強固な抵抗」に遭遇するとは考えなかつたのかも知れません。「住民主体」を真に理解しているのであれば、お隣の市民の総意を「無視をしろ」とは言えないはず。は「合併しなければ禍根を残す」

31日、匿名で次の内容の投書が届きました。原文のまま、抜粋して紹介します。見出しは編集子がつけました。

同盟の言うがままが、 こんな結果に

拝啓

いつも甲良民報を見て思う。それは町がいかにもずさんな処理してきたか残念である。役場へは良く行くが、まず職員の状態、あの態度はなんやと言いたいくらい。(中略) 町有地の問題、盗水、なににしてもそこには解放同盟と関係する職員がいる。(中略) もっと職員の気持ちの入れ替えをしなければ。

前の町長選挙のときに役場の職員採用時には縁故就職が何人かいてると聞いた。試験も無し、ヤミ就職、身内就職、同盟就職。あの時のことは本当だったのだ。

(中略) 地区の私でもこんな最低な町には住みたくない。解放同盟がやってきたことがこんな結果に。町がうまく同盟にせられていた。

チラシの公平・公正な・・・はほど遠い。町長の身内と同盟職員やめさせろ。それから町長も。

9月議会日程

決算認定議案が今回無いとはいへ、生活不安、大増税計画、憲法改悪など、内外とも激動の情勢の中で開かれます。なお、15年度各会計の決算認定議案の上程は12月議会になると見込まれます。7日：開会、16年度一般会計補正予算など提案、その他17日：請願審議、採決、一般質問など

甲良民報

NO256 2004年9月5日
発行：日本共産党甲良町支部
支部長 西澤伸明 在土463
Tel・Fax：38-4949
日本共産党のホームページ
<http://www.jcp.or.jp>
【月3回発行・月初めか月末原則休刊】